

違反是正事例（事例6－3）

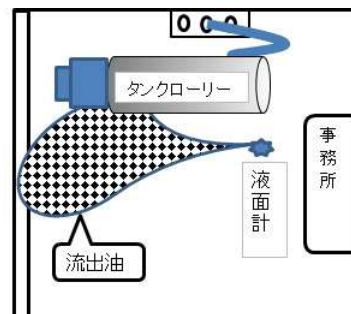
テーマ < 油流出事故による危険物取扱者に対する違反通告措置 平成21年 >

（違反通告・給油取扱所・移動タンク貯蔵所）

- 営業用給油取扱所において、タンクローリーからの注油時に、油を漏洩させたことから、危険物取扱者に対して違反通告制度を適用した事例

危険物施設の概要

- | | |
|---------------|--|
| (1) 営業用給油取扱所 | |
| 許 可 事 項 | 設置許可 昭和52年8月8日 |
| 種 類 ・ 許 可 数 量 | 第四類第1石油類 19,200ℓ
第2石油類 9,600ℓ
第3石油類 28,800ℓ |
| 許 可 倍 数 | 指定数量 134.4倍（地下タンク6基） |
| (2) 移動タンク貯蔵所 | |
| 許 可 事 項 | 設置許可 平成18年9月13日 |
| 種 類 ・ 許 可 数 量 | 第四類第1石油類、第2石油類、第3石油類
タンク室6室(4.2.2.2.4) 計16,000ℓ |
| 許 可 倍 数 | 指定数量 80倍 |



違反処理の概要

- (1) 流出事故の発生

平成21年7月25日、営業用給油取扱所において、移動タンク貯蔵所（タンクローリー）の運転手A（危険物取扱者）が、給油所の地下貯蔵タンクに軽油を荷卸しする際、地下タンクに設置されていた液面計が破損しているのを認識していたにもかかわらず軽油を注入し、当該液面計部分から軽油を漏れいさせ、歩道及び雨水ます等に流出させた。

この際、行為者A（以下「A」という）は、地下貯蔵タンク No. 1 の容量9.6kl に対し、残油量が6.65kl あることを確認していた（許可数量まで2.95kl の注入が可能）ものの軽油4kl

を注入したものである。

(2) 事故の経緯

Aは、給油取扱所の所長B（以下「B」という）から、軽油は貯蔵タンク No. 1 と No. 2 から、計量機で相互に給油できることから、タンク間にわたり配管があるものと思い込み、そのような説明も受けていた。このため、超過分の 1.05kl は、No. 1 タンクから渡り配管を通じて別の地下貯蔵タンク No. 2 に溢れることなく流入するものと思い違いして、注入したため超過分が壊れている油面計から流出した。

また、B（危険物保安監督者）は、地下貯蔵タンクの残油量の確認についてはAとともに行ったが、荷卸しの際には立会いの指示と立会いを行わなかった。

(3) 違反調査

発災の覚知と同時に、違反処理体制を整えて、現場見分、関係者からの供述録取を行った。違反事項調査の結果、事故の発生と経緯を把握し、違反通告制度に基づく処分を検討した。

ア 危険物取扱者に係る違反点数の算定について

Aは、地下貯蔵タンクの液面計が破損していたことを認知していたにもかかわらず注入し、当該液面計から軽油を漏れいさせるとともに、歩道及び雨水ます等に流出させたことによる危険物取扱者の責務違反として、また、事故発生後、直ちに消防機関に通報しなかったことによる通報義務違反として違反点数 10 点と計上した。

なお、A（タンクローリーの危険物取扱者）は、他府県の危険物免許状であった。

1	危政令第 31 条（法第 10 条第 3 項関係） 責務違反（貯蔵及び取扱いの基準違反）	基準点数 4 点
2	危政令第 31 条（法第 16 条の 3 第 2 項関係） 責務違反（事故通報時の通報義務違反関係）	基準点数 4 点
3	事故の程度が小	付加点数 2 点

イ 給油取扱所の危険物保安監督者 B

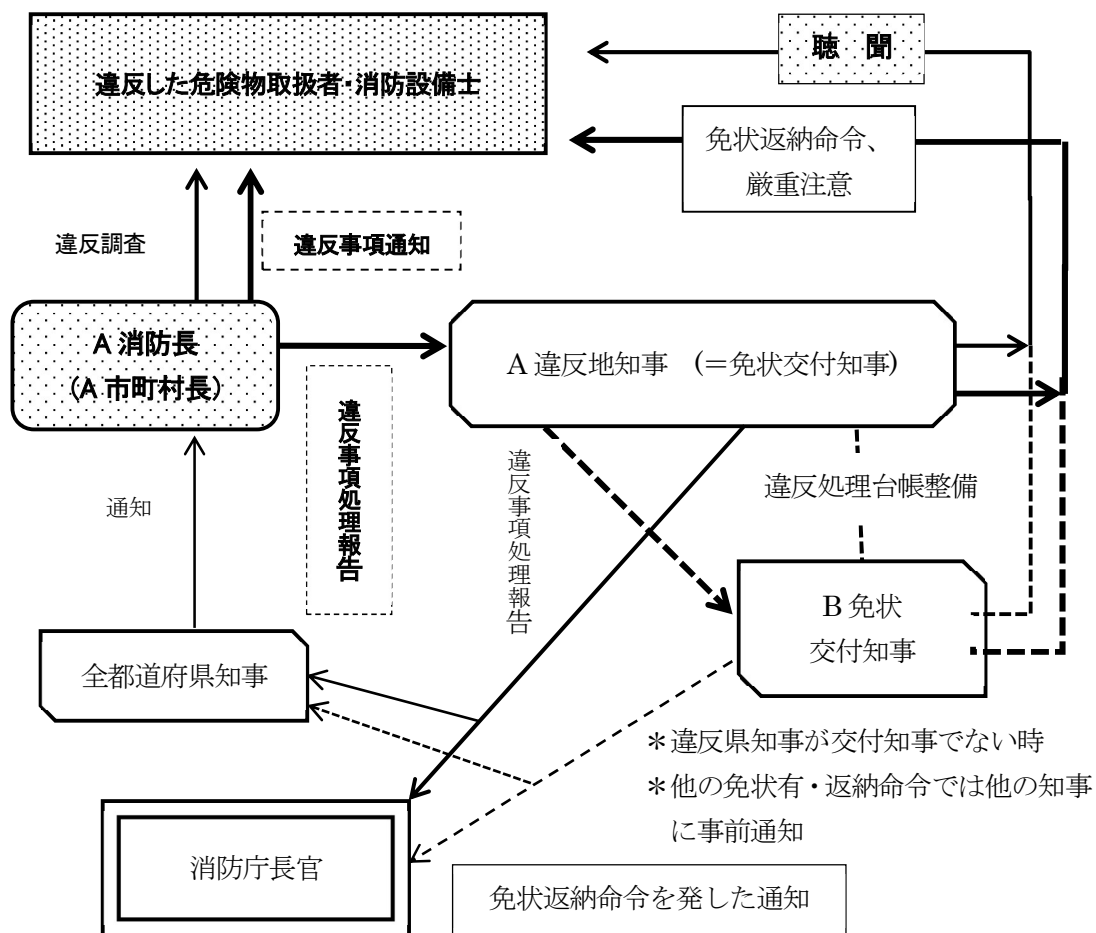
Bは、事故後、直ちに消防機関に通報しなかったことによる通報義務違反とした。

1	危政令第 31 条（法第 16 条の 3 第 2 項関係） 責務違反（事故通報時の通報義務違反関係）	基準点数 4 点
2	事故の程度が小	付加点数 2 点

(4) 県知事に対する違反事項通知

2名の危険物取扱者に対する違反通告を図1に従い、県知事に通知し、県知事から違反通知がなされた。

図1 免状返納・命令等の流れ図



(事例 6 - 3) グループ検討

テーマ < 油流出事故による危険物取扱者に対する違反通告処置 >

1. 危険物の流出事故時の対応について

危険物の流出事故が発生した際の初動対応として、どのような体制ができていますか。消防法第 16 条の 3 の 2 (危険物流出等の事故原因調査) の条文が平成 20 年に追加されてからの各自の消防本部の調査要領を確認してください。

参考：「危険物流出等の事故の調査マニュアル」(平成 20 年 8 月 12 日付け消防危第 317 号)

http://www.fdma.go.jp/neuter/topics/houdou/h20/2008/200811-2houdou_b2.pdf

2. 危険物の流出事故時の違反処理について

現場での対応として、法第 12 条第 2 項 (製造所等の維持、管理) や、法第 12 条の 3 (製造所等の緊急使用停止命令等) の適用を考慮した場合の対応について、検討してください。

また、違反調査として、県知事に報告する「危険物取扱者違反処理報告書」を確認し、各事項に必要とされる調査内容について、検討してください。

3. 違反通告制度に基づく点数について

危険物取扱者免状返納運用基準を確認して、本事例の違反点数について、検討してください。

4. 危険物保安監督業務の違反点数について

B は、保安監督者として、危政令第 31 条の「危険物保安監督者の誠実義務」に違反することから、消防法第 13 条第 1 項の「危険物保安監督者保安監督業務不履行」として、違反点数が計上されると考えられるが、この点について検討してください。

アドバイザーが付加提示した課題及びその他グループで意見が出た内容の検討

(テキストに資料として、消防設備士・危険物取扱者免状の返納命令に関する運用通知を掲載しています。)